

## 編集後記

私の持っている古い地図帳によると、豊橋は日本の中でもかなり日照時間の長い所である。私もここに来てから少し色が黒くなった。今年は空梅雨なのか、日差しの強い日が多い。

文学論叢をはじめとする学内の機関誌は愛大の学問研究の基盤となるものである。特に、私を含めた若手研究者にとつて、文学論叢が年二回発行され、それだけ投稿のチャンスがあるということは、たいへんありがたいことである。学外で対外的に発表していくことはもちろん重要なことであるが、学外の研究会で出す論文集等では、テーマの制約があるなどして、必ずしもその時に自分が最も関心を持っているテーマについて書くことができるとは限らない。そうした制約がなく研究を論文の形にまとめていくことは、勉強のため、今後の研究の見通しのためにも貴重なことである。先輩の方々が築きあげてきた伝統はプレッシャーになる面もあるが、やはり励みとなる。

年二回と書いたが、次回が特別号となり、それを含めて今年度は三回発行されることになる。普段専門の異なる方々がどのような研究をなさっているのかを知る機会がそれほどは

多くないだけに、文学論叢を手にして、執筆者の顔を思い浮かべつつバラバラと活字を眺めながら研究の様子をうかがうことができるのは楽しみである。次号は連続ものは採用しないという制約があるが、様々な先生方から多くの論文が寄せられることを期待している。  
(T.I.)

平成十一年七月十五日 印刷  
平成十一年七月二十日 発行 (非売品)

編者 愛知大学文学会

代表者 奥村 敏

印刷所 豊橋市東森岡  
有限会社 三愛企画

発行所 豊橋市町畑町  
愛知大学文学会

振替〇〇八三〇一―四五六五四